

⑪の組

77 ～浄蓮寺址～ ⑪1の組



浄蓮寺の創設は 大永 5 (1525) 年で この地 (県道 438 の車の待避所近辺・今井家の下 11 の組) にあった。
現在の 10 の組には 寛文 4 (1664) 年に 移転している

79 ～陣ヶ丘～ ⑪の組



「袴峠」と同じく平賀氏が攻めて来た時の備えとして「陣」を構えたと考えられる。小田城址からは この「陣が丘」がよく見通せるし 河戸方面も見渡せるので「陣地」を敷いたのではないだろうか…。この地を地元の人々は「陣が丘」と呼んでいる。

81 ～妙見権現社～ ⑪の組



全国には妙見と名のつく神社は数多くある。どれも中国から伝わった北極星信仰と結びついている。「妙見」とはすぐれた視力という意をもつ。
昔 堤の大池が決壊し土砂が流れこの社のある所に 小山ができた。ここにはご神体がある。二つの石に浮かし彫をしたものとは 5mばかり離れた所にある。

83 ～大迫原古墳～ ⑪の組



この地を大迫原という。横穴式古墳が 1 基あるが 崩れて埋まった状態である。場所は末岡家 (11 の組) の山上にある。(山の神の谷を隔てた西の谷の山中…)

78 ～袴峠～ ⑪の組



「はかみだお」と読む。瀬谷峠より南に位置し河戸へ下る 西の峠として重要であった。
昔 白市の平賀氏が小田城を攻めて来て 戦いが劣勢となり 袴を脱ぎ捨てて河戸へ下って逃げ帰ったという (民話)

80 ～山の神～ ⑪の組



今の堤 (12 の組) へ上がる道路の工事をしていた時 大きな岩が出てきた。岩を砕いて道をつくったが 地元のある古老の枕神に立って「私の住むところがなくなった…」というので ご神体を祀ったと伝えられる。「五穀大明神」と刻んであり 地元の人が 毎年 清めてお参りしている。

82 ～袴峠を下り河戸側から～ 河戸から撮影



昔は「瀬谷峠」よりこちらの方が近かったので村人達は 袴峠をよく利用したようだ。戦いに敗れた兵士も ここから逃げ帰ったのだろうか…?

84 ～瀬谷峠～ ⑪の組



今「瀬谷峠」は 小田の西の玄関口である。朝夕は小田橋を渡って 河内方面に下らず 西条・八本松・広島に向かう車両が非常に多くなった。瀬谷峠の七曲りカーブや道幅も広く緩やかに改良され 雪の冬季間も安全になった。小田へ来る人「ようこそ…小田へ」。小田から西へ向かう人「またのお越しを」など… 心なごむ峠になった。